

公表

保育所等訪問支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	鈴鹿市第1療育センター		
○保護者評価実施期間	令和 7 年 12 月 8 日		～ 令和 8 年 1 月 9 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	令和 7 年 12 月 8 日		～ 令和 8 年 1 月 9 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○訪問先施設評価実施期間	令和 7 年 12 月 8 日		～ 令和 8 年 1 月 9 日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 19
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8 年 2 月 16 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・多職種が連携して保育所等訪問を行い、さまざまな専門的視点から課題への対応を検討している。	・保護者様のニーズやお子さまの課題に応じて、訪問支援員の職種を担当職員が選択・調整し、最適な支援が行えるよう工夫している。	・引き続き、保護者様のニーズを丁寧に把握し、訪問支援員の職種や体制を柔軟に調整することで、より充実した支援につなげていく。
2	・保育所等訪問を通して学校・保育所等との連携を図り、学校・保育所等での様子や情報共有した内容について、保護者様に対して時間を確保し個別性に配慮し伝えている。	・事前訪問や訪問終了後には、訪問先の先生方と情報共有を行い、必要に応じて同じ方向性で支援ができるよう努めている。なお、訪問にあたり、指導的な関わりではなく提案という形を重視し、訪問先の支援者にも必要性やメリットを感じていただけるような提案や助言を心掛けている。あわせて、療育センターでのお子さまの様子や課題についても共有している。	・訪問した経験のある施設に対しては、身近で気軽に相談できる存在となれるよう、定期的に電話連絡を行い、椅子の高さ等の環境面についても確認する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・訪問支援を定期的に実施できていない現状がある。	・訪問支援員が不足していることに加え、多職種で訪問を行う際には、職員間の日程調整や、訪問先施設との調整が円滑に進まないケースがある。	・訪問先の先生との事前打ち合わせについては、2回目以降はオンラインを活用するなど、業務の効率化につながる策を検討する。
2	・保護者様の希望による訪問であっても、受け手側の学校や保育所等が「視察」と受け取ってしまい、抵抗感を示される場合がある。	・訪問先との信頼関係が十分に構築されるまでに時間を要し、気軽に相談してもらえる関係性づくりが課題となっている。	・日常的に訪問先施設と情報共有を行い、訪問時の調整が円滑に進むよう取り組んでいきたい。